

十和田市(三本木原開発施設群・奥州街道の一里塚群)



**1 稲生橋 三本木原開拓施設群**



稲生川と奥州街道(旧国道4号)が交差する場所に「稲生橋」があります。万延元年(1860年)三本木原開拓の視察に訪れた盛岡藩主・南部利剛公が、新しくできた用水路と橋と町に「稲生」の名を与えました。

**2 三本木稲荷神社 三本木原開拓施設群**

国道4号線沿いの大きな鳥居が目印の神社です。作物・商売の神様として市民に親しまれています。新渡戸氏による三本木上水完成後、現在地へ勧請したことからの始まりと伝えられています。

**3 カトリック十和田教会**



戦前に日本に16年滞在し、学校や宗教施設のなどの多くの建築設計を行ったスイス人のマックス・ヒンデルが設計した木造教会であり、正面の切妻屋根に鐘楼を戴き、切妻の玄関を張り出し、外壁下見板張にアーチ窓を配する。内部は三廊式で側廊上部を回廊とし、身廊両側に円柱を並べて柱頭飾を載せ、連続アーチを架ける。西洋のロマネ

スク様式を模している。市街のランドマークとなる清楚な教会建築である。

**4 太素塚 三本木原開拓施設群**



江戸末期に、三本木原(十和田市)に人工河川を上水し、基盤の目状の都市計画を行い、十和田市の基礎をつくったのが、南部藩士・新渡戸傳(つとむ)と、その子十次郎、孫の七郎でした。旧五千円札の肖像にもなった初代国際連盟事務次長の新渡戸稲造も、新渡戸傳の孫です。「太素塚」は、明治4年に新渡戸傳が亡くなったときに葬られた墓所です。

**5 新渡戸記念館 三本木原開拓施設群**



新渡戸記念館では三本木原開拓に尽力した新渡戸傳を始めとする先人達の歴史を知ることができます。開拓時の計画図面や測量機器、国際親善に大きく貢献した稲造博士の遺品など7千点余りの資料を展示しています。

**6 稲生川ふれあい公園 三本木原開拓施設群**



稲生川の改修工事は、国や県の事業で進められたが、整備された稲生川のあまった土地を利用し、十和田市の佐井幅から西十一番町までの間3.6kmを、地域の人たちが水と親しんでもらえるよう「稲生川ふれあい公園」として整備しました。

**7 京の館の合流点 三本木原開拓施設群**



三本木原台地の入口にあたる地点で、稲生川は急に高くなった地盤をえぐるように10mも掘り下げたところを通っています。ここで国営用水路が稲生川に合流しています。

**8 山の神の碑 三本木原開拓施設群**  
安政3年(1856年)穴堰工事の安全を祈って稲生川の工事技術者たちが建てた石碑です。「山神」(やまのかみ)の文字の下には頭取の吉助をはじめとする技術者たちの名前が刻まれています。



**9 幻の穴堰 三本木原開拓施設群**

新渡戸十次郎の第二次上水計画により慶応2年(1866年)に掘られたトンネル(穴堰)。十次郎が慶応3年に亡くなったため完成していません。内壁には当時の工具による掘り跡などが残っています。※現在「幻の穴堰」は、封鎖されています。



**10 稲生川取水口 三本木原開拓施設群**

奥入瀬川から稲生川へ取水する水門。稲生川のスタートポイントで、取水口周辺は公園として整備され、開拓に使用された工具のレリーフ等があります。

**11 旧笠石家住宅**



この地方の農家の典型的な住宅で、18世紀後半の建築と推定されています。1973(昭和48)年に国の重要文化財に指定されたことをきっかけに、建築当初の形式に復元され、一般公開されています。母屋の形は直家、屋根は茅葺きの寄棟造り、間取りは一種の広間型の平面となっています。隣接地には、十和田湖民俗資料館が設置されています。

**12 法量のイチョウ**

法量のイチョウは、青森県では2番目に国の天然記念物に指定されたもので、推定樹齢1,100年、樹高32m、目



通周囲14.5mの日本を代表するイチョウの巨木です。気根が多く垂れていることから、古くから「乳もらいのイチョウ」として母乳の不足で困っている女性の信仰の対象となっています。十和田湖伝説に登場する南祖坊が手植えたものという説話が伝えられています。

**13 十和田神社**



十和田湖畔の杉木立に囲まれて立つ十和田神社は、大同2年(807年)に坂上田村麻呂が創建したと言われる古社。現在は、日本武尊が祀られています。明治の神仏分離までは十和田湖伝説の大蛇を法力により退治したという名僧で、境内の祠には、彼の履いていたという鉄のワラジが奉納されています。また、十和田神社から山中へ150m入ったところにある占場では、おより紙が古い場で沈めば願いが叶い、浮いたままだと成就しないとされています。占い場へは途中、難路となっており急な斜面を鉄のはしごで上り下りします。

**14 一里塚(池ノ平) 奥州街道の一里塚群**

池ノ平の一里塚は、東側の塚が直径11.5m、高さ3.6m、西側の塚が直径13.2m、高さ3.4mあり、一部が破壊をうけているものの、一里塚本来の姿が良く保存されていることから、県の史跡に指定されています。築造年代については諸説あるが、工藤正六家文書に「承応元年7月26日より8月10日、七戸川去・豊間内間一里塚築造、奉行工藤重助祐道」(七戸町史2所収)とあり、1652(承応元)年頃と考えられています。



**15 真登地一里塚 奥州街道の一里塚群**



**17 一里塚(伝法寺) 奥州街道の一里塚群**

国道4号線近くの伝法寺集落の西500m地点の奥州街道沿いに位置しています。現状は雑木林で、西側の一部が破壊されているものの保存状態は良好で、加えて奥州街道の跡も良く保存されていることから、県の史跡に指定されています。

